



スタートは



問い合わせ先

〒418-0075 静岡県富士宮市田中町1150

(株)三与建設 (みつよけんせつ)

TEL 0544-27-0770

URL <http://www.mitsuyo.co.jp/>

就職応援サイト
マイナビ 2019へGo!





現場は、二人三脚だ。



現場を駆け回る、
トップアスリートたち。

PART-1

長田裕之、18才。入社してまだ1年あまりの彼は平均年齢32才と若い三与建設の中にあっても、ひときわフレッシュな存在。そんな長田が毎日通うのは、富士宮市公営住宅の建設現場である。この現場を切り盛りするのは鋼田照男、入社18年目を迎える大ベテラン。残念というか当然ながら、長田はまだ現場監督の勲章は得ておらずアシスタント役。つまりこの建設現場は、ベテランと若葉マークの二人三脚のカタチで進められているのであった。

この建物、着工は事情があって約1ヶ月遅れの9月3日。RC(鉄筋コンクリート)造りの構造ということで、1階から2階、2階から3階へと躯体を積み上げていくのと同時に、順次で上がった階から各種設備工事、内装工事が始まっていく。とはいえ設備工事関係だけでも、その数なんと25社以上。工期の遅れの挽回は、これら下請け業者がいかにか効率よく作業に取り掛かるかにかかっている。そんなことは百も承知の鋼田。施主になる市役所と図面を前に技術的なことを検討するかたわら、設計図を施工図に書き直し、工程がスムーズに流れるように工程

表を書き上げていく。もちろん週一回の、業者との打ち合わせも入念だ。そんな鋼田を見ながら長田は「現場監督というのは、関わる人の持っている技術を最高の状態で出させてやるのが大事。段取りがスムーズにできなくてはだめなんだ」と痛感する。



工程管理ができれば一人前だとは、長田も思っていない。一つの現場の利益の確保を計算して工事を進めるのも、監督の大きな仕事。つまり、一つの設計図をもとに施工プランをたて、業者の手配や段取りをしていく。その一切の仕事の流れ、その一切のお金の流れを管理しプロデュースするのが、監督の役割なのである。「鋼田さん見てたら大変だなと思うけど、それ以上にすごいと思う。あれだけ責任を持って何から何までするのだから、完成したときの喜びはひとしおなんだろな」と感想を漏らす長田。「やっと現場になれた」彼は今、鋼田と二人三脚を組みながら、着実に監督としてのひとり歩きをしているようだ。

職人さんとのア・ウ・ンの呼吸。
現場は、このリズムで盛り上がる。

【助監督プロフィール】

長田 裕之(18才) 工務部建築課 現場歴:1年目
現場経歴: 関東精工工場建設工事 仕事の醍醐味:
職人さんにいられるぞ 仕事以外の趣味: 愛車の
MR2でドライブ



【お弁当拝見】

本日のメニュー:一口カツ、卵焼、チーカマ、ハム、フライドポテト、焼き豚、トマト、キュウリ、レタス 弁当製作者: 母 好き嫌いは: タマゴは〇、ビーマンは× 弁当への要望: 作ってくれるだけでありがたい 食べる場所: 現場事務所 ※お弁当袋には歯ブラシが入っていて、食後には必ずブラッシング エネルギー源: なんといってもクルマ



現場は、マラソンだ。



現場を駆け回る、
トップアスリートたち。

PART-2

「ちょっと現場を見てみますか？ いえ、ほんの20~30分くらいですから」。笹川の一言にのせられ、現場へと向かってみた。静岡県のやや東部を流れる富士川。広大な河口をさかのぼって



ていくと、クルマは次第に本流を離れ水系の一つ稲子川に沿って上流部を目指した。景色は陰しさを増し、川の流れも荒削り。「さあ、着きましたよ」。入社5年目を迎えた現場監督・笹川の仕事場は、雄大な自然の中にあつた。手がけてきたのは、稲子川ダム。土砂の堆積から自然を守るための、砂防ダムである。

第一期工事、昭和63年着工、平成4年完了というロングランの稲子川ダムに、笹川は平成2年から参加。施工現場は、まず伐採から始められ、測量、掘削と進められていく。途中から携わった笹川が引きついたのは、このあとの工程。高さ約20m、幅およそ100mの壮大な稲子川ダムも、いっぺんにドーンと出来上がるわけではない。「コンクリートの塊のようなダムも実はブロックごとに分け、図面に沿って型枠を組み、コンクリ

ートを流し込みながら少しずつ積み上げていくんですよ」と笹川。「このとき心配なのが天候。コンクリートを流し込む前の型枠を組んだ状態の時に大雨でも降ろうものなら、家に帰っても心配で落ち着かなかつたなあ」とも付け加えた。でも、「やるだけやったら、あとは神のみぞ知る」といった心境らしい。なにしろ工事に参加し始めてすぐ、大雨のために川は氾濫、道路は崩壊。現場にも被害はあつたが、コンクリートも運搬できず、半年も手付かずの憂き目にあっている笹川だけに、「自然の力には勝てない」ということが骨身に沁みているのだ。

もちろん自然だけが相手ではない。そこに従事する人がいる。笹川はいう、「どんな現場でも、ボクが働きやすい環境を作ってやらなければ、いい仕事ができない」と。毎日交わす感謝を込めた挨拶。工事の細かな打ち合わせ。その日の仕事が終わって、現場で酒を酌み交わした事も度々。すべてがスムーズな人間関係作りのためだ。一応の完成を見た稲子川ダムも、まだこの後に護岸工事が待っている。現場監督・笹川のマラソンのような仕事のゴールは、まだ先にある。

工期が長いから、焦らずにマイペース。
一歩一歩、着実にゴールに向かっている。



【監督プロフィール】

笹川 延幸 (24才) 工務部土木課 現場歴：4年 現場経歴：西富士工業団地、稲子川ダムほか 仕事の醍醐味：造ったものが残ること 仕事以外の醍醐味：愛車・カラオケレベリンでのドライブ

【お弁当拝見】

本日のメニュー：炊き込みご飯、アサリの味噌汁、酢豚、ゆで卵、クリーンアスパラ、プチトマト、タクアン 弁当製作者：妻 好き嫌い：何でも食べる 弁当への要望：温かい弁当がうれしい 食べる場所：現場で下請けさんと エネルギー源：酒



現場は、 リレーだ。



現場を駆け回る、
トップアスリートたち。

PART-3

三与建設の仕事量全体を10とすれば、建築工事7に対して土木工事の割合は3。これら仕事のキーポイントとなるのが、営業である。とはいえ民間と官庁関係の仕事では、営業のスタイルが違う。相手が官庁の時には、何と言っても事前の情報収集が必要。大は行政や経済の流れ、国家予算の割り振りから、小は関係市町村の予算を常に頭に入れておかなければならない。こまめに官庁の関係部署を訪れ、大きなプロジェクト計画などを前もって聞き出しておくことも大切となる。対して民間需要の場合は、すでに三与に工事を発注したことのある顧客ルートからのものが多い。建設の営業はほかの業種と違い、売り物は信用と技術。今まで手がけてきた建設物が営業ツールとなり、積み重ねてきた信頼がものを言う。「民間企業の仕事というのは、ゼロからの出発・計画の場合が多い。決められた予算を生かすために、いかに効率よく、いかにスムーズに、求めている建物を建設してやれるかを考えなければならない。それを金額面、技術面、さまざまなカタチで提案していくわけです」と三尾。現場に移る前から、よりよい空間

造りは始まっているのである。

対オーナーとの折衝と同時に、その仕事を社内の中でどう進めるかを段取る。つまり営業から現場への流れるようなバトンリレーの組み立ても、また大切な仕事のひとつである。「工場が得意な人、RC構造なら任せておけ」という人、過酷な条件であればあるほど腕を振るう人。社内の監督の中にも、それぞれに個性があって、工事ごとに最適な人材を選ぶこと」が、工事を成功に導く大きな要因となるのだ。あらゆる工事のスタートからフィニッシュまで、営業はいつも大いなる縁の下の力持ちなのである。事実こんな幅広い営業活動が実って、三与建設では開発部を誕生・稼働させている。その活躍フィールドは、建築、土木を両輪に、今後ますます広がりそう。また設計も事務所登録をすでに終え、今以上に自社設計を充実させる構えだ。



営業から設計、そして工事へ。
いい仕事には、この連携プレーが欠かせない。



【営業プロフィール】

三尾 祐一 (27才) 営業部主任 営業歴：4年 現場経歴も1年あり 仕事の醍醐味：何と云っても形が残る。こんな創造的な仕事は他にないぞ 仕事以外の醍醐味：バイク、ジェットスキー、クルマ、スキー、酒 etc.



【お弁当拝見】

本日のメニュー：肉そぼろのご飯、粗挽きウィンナー、焼き肉、野菜炒め、青菜おひたし、焼きイカ、白米漬物、しば漬け、紅ショウウガ 弁当製作者：母 好き嫌い：何でもOK 弁当への要望：とても言える立場では、ございません 食べる場所：本社食堂 エネルギー源：ひみつ!?